



## ロータリーの基本精神としての 「サービス理念」と「職業奉仕」

R1元理事、パスト・ガバナー 菅生 浩三

### 私達は何のためにロータリーに入ったか？

- 1、職業奉仕の話をやよとのことですが、そのためには、どうしても「綱領」の「サービスの理念」のお話から始めねばなりません。
- 2、そもそも私達は、何のためにロータリー・クラブに入って活動しているのでしょうか。友達を作って楽しく過ごすためとか、困っている人や貧しい人を助けるためとか、社会をよくするためとか、外国の人々を理解して一緒に仲良く生きるためとかなど、色々なことが考えられますし、そのどれも正しいのですが、それだけでは、ロータリーとして一番大事な点が抜けているのです。それは、「サービス」という「理念」を理解して実行するためということです。何故でしょうか。「サービスの理念」は、「綱領」の中にその核心の原則として規定されています。そして、綱領は、標準クラブ定款第4条に掲げられており、私達ロータリー・クラブの会員は、同定款第15条の規定によって、「綱領の中に示されたロータリーの原則を受諾し、本クラブの定款、細則に従い、その規定を遵守し、これに拘束されることを受諾するものとする。そして、これらの条件の下においてのみ、会員は本クラブの特典を受けることができる。」のであります。お手許の定款をお確かめ下さい。またこの文章の末尾に、英文の原文を添えて、「綱領」を添付しましたが、実はこれは皆様のロータリー手帳の表紙の裏面のコピーであります。念のため付言し

ますと、和訳には不適切な部分が多く、是非原文を一読されることをお奨めしたいと思います。

### サービスの理念

そこで本論に入りたいと思いますが、「綱領」は、本文と四つの各論から出来ています。綱領の本文においては、ロータリーの精神の基本が「サービスの理念」「The Ideal of Service」にあるとされ、ロータリーの目的は、社会の人々の役に立つ活動の基本として、「サービスの理念」という考え方を奨励し育てて行かねばならないとされております。ところで、「The Ideal of Service」が「奉仕の理想」と訳されていることは、皆様よくご承知のとおりです。しかしながら、わが国の社会には「Service」に該当する活動はなく、従ってこれを表現する言葉もないので、「奉仕」と訳するのは誤りであり、「Service」はそのまま「サービス」と訳しておいた方がよいし、「Ideal」は単なる成果の表現ではなく、不断の精神的努力の目標であるから、「理想」と訳すべきではなく、「理念」と訳すべきであるという議論があります。私は、「サービスの理念」と云っております。ところで、この「サービス」「Service」という言葉については、定款細則その他のロータリーの公式文章のどこにも定義がありません。何故でしょうか。この「サービスの理念」「The Ideal of Service」という表現は、1918年のカンザスシティの国際大会で採択されたロータリー・クラブ国際連合会の「綱領」

の中で初めて出て来た表現ですが、それはそれより以前の1911年のポートランドの全米ロータリー・クラブ連合大会で採択されたアーサー・フレデリック・シェルドンの、「最もよくサービスする者は最も多く報われる。」“He profits most who serves best”というモットーと、これに誘発されたフランク・コリンズの、「自分達だけのためであってはならないサービス」“Service not self”というモットーの中の“Service”という言葉から採用されたものであるからであります。設立当時のロータリー・クラブは、親睦と仲間内の互惠取引のためにある典型的な社交クラブでありましたが、このような状況から脱却するために、シェルドンは「取引をするにあたっては、自己の利益ばかりに執着するのではなく、相手方や取引の関係者その他社会一般の人々のためになるように考えて取引する者が、取引に成功する。」と唱え、コリンズは「クラブの仲間だけの利益を図る取引では駄目で、社会一般の人の利益となるような取引でなければならない。」と唱えたわけです。シェルドンのモットーは、“profit”という文字に表現されているように、当時のシカゴの経済的混乱に適応して人々を説得するために、取引に関する表現をとっていますが、その真意は究極的には精神的な意図を指向していたものと思われます。また、コリンズのモットーも、本来は取引の公正さを訴えたただけのものでありましたが、その後何故か「自己否定までしてするサービス」の意と解されるようになり、それでは極端すぎるとして「超我のサービス」“Service above self”と修正され、その意味も却って取引以上の精神的意味が持たされることとなって今日に至っています。このような次第で、サービスの考え方を現在及び将来に向けたロータリーの役割を踏まえて受け止めれば、次のようになるでしょう。

人は自分で生きていくものではありませんが、同時に他人のおかげで生きることができるのもあります。現に、私どもの財産の価値は他人様や社会

が決めていますし、人はいくら人間嫌いでも精神的に社会を離れて一人では生きることができません。自分で生きることすら、他人様のおかげで可能なのです。人は、物心ともに他人様とともに社会の中でしか生きられない存在で、しかも心を持った精神的な存在であります。従って、人は自分のことだけでなく、他人様のことを真剣に考え、他人様のために誠実に尽した充実感によって、初めて自分の幸せを手に入れることができるのであります。しかもこの「サービス」という考え方は、ロータリーだけの独占物ではありません。人間と社会の本質に由来する人間存在の基本を流れる真理であります。このことに気付いていない人々も沢山いますし、気付いても実行できないでいる人々も沢山います。そこでロータリーは、シェルドンやコリンズのモットーの考え方の流れに沿って、この「サービスという考え方」“The Ideal of Service”を一生懸命に提唱して、その実行に努めています。ロータリーは、人間社会とともに永遠であり、その基本は不変といわれる所以でありましょう。

#### ロータリーの4つの綱領

「綱領」には、その本文の後に、本文で謳い上げたことを具現化するために、さらに四つの事項を掲げていることは、ご高承のとおりであります。その「第一」から「第四」までですが、その中で最終的な結論は「第三」です。すなわち「第三」は、ロータリーの根本原理である「サービスの理念」を単に理解するだけではなく、私どもが活動する色々な面で実践し実現して行かなければならないことを説いています。ロータリーは、「ロータリアンの各自が、自らの個人生活、職業生活、社会生活において、サービスの理念を実践していくことを奨励し育てて行くこと」を、その目的としているのであります。そして、その際に私達がよく理解しておくべき点として、「第一」、「第二」、「第四」の三つの点を指摘しています。「第一」は、「サービスの理念」自体を人間社

会に普及することの重要性です。「第二」は、「サービスの理念」を実行する上で「職業」が持つ特異な価値の認識の徹底です。「第四」は、「サービスの理念」を国際社会に普及させる上での留意点です。先ず「第一」は、「サービスの理念」というロータリーの根本原理を人間社会に普及させ実現させて行くことの意義を謳い上げています。これはむしろ当然のことです。「サービス」「Service」という考え方は、人間社会の基本の真理ですから、ロータリーは、一人でも多くの人々との知り合いを広めることによって、「サービス」の考え方を人間社会に普及させ実現させて行くことが、すべての出発点です。そのためには、ロータリアンの各自が知り合いを広めることによって、「サービスという考え方」の普及とその実現のための活動に努めなければなりませんし、ロータリー・クラブもそのクラブ活動によって、「サービスの考え方」の普及とその実現のための活動への理解を深めて行かねばなりません。クラブの場合、先ずは親睦、出席、ロータリー情報などの活動によって、クラブの中で会員自体が「サービスという考え方」とその実現のための活動への理解を深めて行かねばなりません。次に会員増強や拡大のクラブ活動によって、新しい会員を迎え入れたり新しいクラブを作ったりして、「サービスという考え方」とその実現のための活動を広めて行かねばなりません。さらにそれだけではなく、広くクラブの広報活動によって、社会一般の人々に向けて、「サービスという考え方」とその実現のための活動を訴えて行かねばなりません。「第二」は本日の本論ですから、次項に述べることとして、次に「第四」は、国際関係の特異性に基づく国際奉仕活動の重要性を指摘しています。言語、習慣、価値観、宗教その他の文化の諸要件や歴史、地理、気候、資源などの存在要件を異にするあらゆる民族と国家が相互の理解に努め親善を実現して、「サービスの理念」を国際社会に普及させて行くことは至難ですが、ロータリーは、「サービスの理念」

に結ばれた職業人の世界的組織やロータリー財団の活動を活用してこの障害を乗り越え、その実現に努めることを究極の目的としているのであります。

#### 職業活動におけるサービス(他人のための職業)

そこで本日の本論の「第二」であります。この項は、ロータリーにおける「職業」とその価値についての考え方を謳い上げたものであります。すなわち、ロータリー精神の核心である「サービスの考え方」は、その意味を理解したり認識したりしただけでは不十分で、実行しなければ意味がありません。他人のことを真剣に考え、誠実に他人のために尽くすことを、実行しなければなりません。ポール・ハリスは、「社会に役立つ人間になる方法は色々あるが、最も身近で効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にある。」と述べています。しかし、何故そうなるのでしょうか。人は、物質的にもまた心理的にも、ニーズの固まりであります。社会は、そこに住む人々のニーズの海であります。人々のニーズは、自らで充たすものもありますが、その大部分は他人によって充たされるものであります。従って、「職業」とは他人のニーズを充たす作業であるということになります。社会は「職業活動」の集積であります。ロータリーは、社会をこのように見ているのであります。しかも、人々のニーズは人間存在の根源でありますから、「職業」が社会で占める意味と価値は正に根源的なものであります。そこで、「職業の活動」こそが、他人のことを真剣に考え、誠実に他人のために尽くすサービスの実行の基本となります。そして、このことをしっかり理解するためには、(1)先ず、社会において「職業」が占める意味と価値が最高であることを正しく認識し、(2)次に、その「職業」の質と充足度の水準をなるべく高く設定することに努め、(3)最後に、自己の具体的な「職業活動」を行うにあたってはそれが社会のために最善のものとなるように努めるという、三つの段階をしっかりと

理解しなければなりません。綱領「第二」の表現によれば、ロータリーは、「事業および専門職務の道徳的水準を高めること、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること、そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」を、その目的としているのであります。このように、この項は、ロータリーにおける「職業」の考え方を謳い上げたものであります。ロータリーでは、「職業活動」をよくすることが社会をよくすることであり、ひいてはその社会に生きる人々の幸せを確かなものとする所以であると考えているのです。

一般の社会では、「職業」は、自分の生計のための手段であるとか、財産形成のための手段であるとか、社会的な地位や名誉を確立するための手段であるなどと理解されています。このような考え方は、極めて常識的で、間違った考え方ではありません。しかしながら、このような考え方の「職業」は、いわば「自分のための職業」であります。そこで、その「職業」が社会的に正しい形で遂行されるようにするためには、人々の自我の恣意を排除するために、色々な制約を設ける必要が出て来ます。例えば、貪ってはならないとか、手を抜いてはならないとか、不正な手段を使ってはならないとかで、違反に対しては罰則を設けたり、行政的な規制をしたり、最近では内部告発を制度化するなどの努力が重ねられています。しかしながら、これらの制約は外部的なもので、外側から人間を制約しようとするものでありますから、その効果には限界があります。現に私どもは、世界の各地域における巨大な企業の衝撃的な不祥事や、もっと厄介な事に、社会の各層各面で絶え間なく発生している様々な人々の慢性的な非行に悩まされ続けています。ところが、ロータリーのいう「職業」とは、他人のニーズを充たすものでありますから、「他人のための職業」であります。「自分のための職業」から「他人のための職業」への意識の転換こそが、職業倫理の第一歩

というべきでありましょう。「他人のための職業」であれば、「自分のための職業」に必要であった多くの制約の大部分が不必要となるでしょう。「他人のための職業」自体が、正に私どもの心の内面の制約に基づくものであるからです。

### 安易な市場原理主義に警鐘

ご承知のように、マクロな見地から視れば、「サービスの理念」という人間関係の新たな視点と、その実行としての「職業」の価値の新たな構築は、アメリカにおける初期資本主義の腐敗と墮落に伴う堪え難い弊害の中から、その批判と解決のために自生した手法と成果でした。ところが、近時東西冷戦の解消と途上国の先進化への努力の具体化に伴い、かつて一旦は相当程度に抑制ないしは修正された筈の市場原理主義が、原色的なその至上主義の形で、グローバルな原則として復活して横行し、世界規模で、政治経済の環境のみならず地球の環境までが、致命的な劣化を余儀なくされております。我が国においても、新自由主義の名の下に、その安易な追従が行われました。その結果、戦後教育における心の教育の欠落と相俟って、あくなき拝金の思潮、格差の拡大と底知れない無気力や無感覚、社会規律をにべもなく無視する行為、人間に対する無慚な背信行為、業界における多種多様な偽装行為等が次々と多発しました。さらに、世界的規模で金融資本主義の破綻に先導された実体経済の危機的混乱を招来し、国際社会の劣化は放置出来ない状況にあります。かくて、ロータリーの「サービスの理念」と「職業倫理」は、今日の間人社会の難局において、社会の基本を規律する根本原理として、益々その輝きを増しているものと考え次第であります。

## ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある：

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること；
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること；
- 第3 ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

## The Object of Rotary

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster:

First. The development of acquaintance as an opportunity for service;

Second. High ethical standards in business and professions; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying of each Rotarian's occupation as an opportunity to serve society;

Third. The application of the ideal of service in each Rotarian's personal, business and community life;

Fourth. The advancement of international understanding, goodwill, and peace through a world fellowship of business and professional persons united in the ideal of service.